

文久元年萩藩主毛利敬親の領内巡見

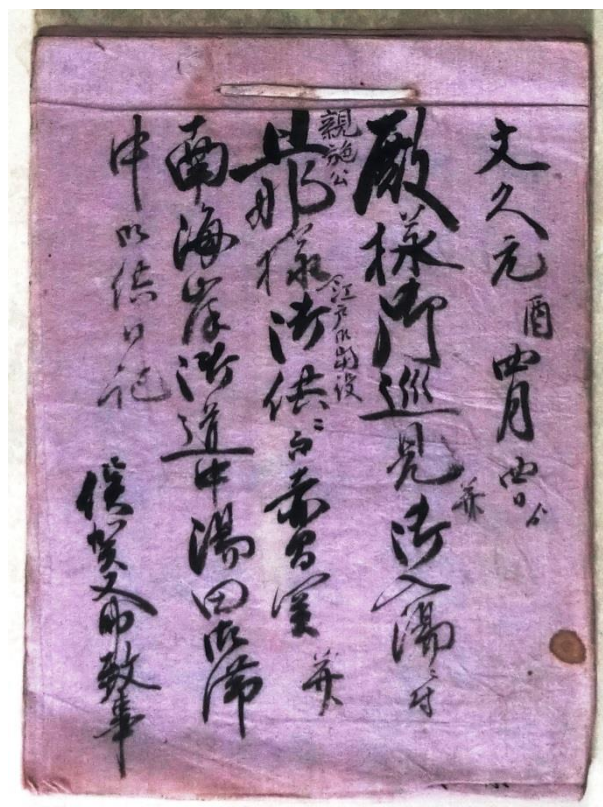
— 毛利家文庫「殿様御巡見并御入湯二付旦那様御供二而
赤間関并南海岸御道中湯田御滞中御供日記」 —



毛利家文庫「防長両国之図」(58 絵図 249)

目次

目次		1
解説		2
文久元年萩藩主毛利敬親の領内巡見行程表		4
文久元年萩藩主毛利敬親の領内巡見ルート		5
凡例		5
殿様御巡見并御入湯二付旦那様御供二而赤間関并 南海岸御道中湯田御滞中御供日記		6



解説

「御供日記」 文久元年（一八六一）「殿様御巡見并御入湯二付旦那

様御供二而赤間関并南海岸御道中湯田御滞中御供日記」（以下「御供日記」と略）は、毛利家文庫・71藩臣日記60「須佐益田家臣股賀又助御奏者致事記録」の中の一冊である。記主の俣賀又助は萩藩永代家老益田家の上級家臣で、幕末期には奏者番を務めた。「須佐益田家臣股賀又助御奏者致事記録」は、俣賀が記した一七冊の日記類（横半帳）からなる帙入の記録群である。この内の一冊「道中日記并小遣諸控」（安政元年、益田家が萩藩の命で相州警備に参加した際の記録）を平成26年度文書館実践講座で解説している。

「御供日記」は、文久元年（一八六一）四月四日、萩藩十三代藩主敬親（当時は慶親）が山口湯田への日帰り湯治を名目に萩を発ち、以後五月十一日までの間、領内巡見を行った様子を書き留めたものである。この巡見に当役益田弾正（親旋）が同行したことから、俣賀も主君弾正（旦那様）に従い巡見に同行したことによる。

敬親の巡見ルート 敬親の巡見ルートは後掲行程表にまとめたとおりである。大まかに言えばこの巡見は、①赤間関街道および赤間関巡見、②「南海岸」（赤間関く小郡間）巡見、③山口・湯田での長期滞在、④山代・都濃・徳地巡見、⑤三田尻巡見、で構成される。

四月四日萩を発った一行は、赤間関街道・中道筋を通って美祢郡

を進み、五日伊佐、六日吉田に一泊後、七日に赤間関の萩藩領伊崎新地に到着する。赤間関では彦島巡見などを行い、十日船で赤間関を発つ予定であったが、悪天候のため十一日出発となり、同日船木に到着した。以後、藤曲、小郡津市で一泊し、途中、妻崎開作・中開作などを見分している。十四日に湯田に入る。同地には二十七日まで十四日間滞在し、山口御茶屋で高島流（高島秋帆によって唱導された洋式兵学）の教練をたびたび見分したほか、吉敷の竜蔵寺や鳳翔山などにも出向いている。もちろん湯田での湯治も欠かしていない。

二十八日湯田を発った一行は、進路を東に向け、鹿野く山代本郷へと向かう。宮野、仁保から徳地宰判へ入り、二十八日伏野（堀村）で一泊後、二十九日鹿野、翌五月一日広瀬へ入る。二日には山代の中心地である本郷の勘場を訪れ、山代惣鎮守の本郷八幡宮にも参詣した。三日須々万へ入り同地で二泊（悪天候のため）、五日長穂の龍文寺参詣後、徳地宰判へと戻り、島地から船で島地川を下り、二宮に上陸し出雲神社へ参詣、陸路を通って同日は一貫野で一泊する。翌六日再び湯田へと戻る。

七日、一行は三田尻へと向かう。ただし通常の萩往還ルートではなく、問田から小鯖を通って切畑、台道へ抜け、佐野埜を越えて大崎から船に乗り三田尻へ進むコースであった。八日高島流教練の見

分や御舟蔵の見分後、船で中関に向かっている。九日には越氏塾を訪れ文学・剣道等を上覧した。十日三田尻を発ち、右田経由で湯田へ戻り、十一日萩往還を通じて萩に帰り、一月以上に及んだ巡見を終了した。

巡見の意図 巡見中、敬親一行は寺社参詣や滝見物なども行っており、物見遊山的要素も皆無ではない。しかし、文久元年という時期を考えれば、この巡見が、激動する対外関係と国内政治を背景に実施されたことは容易に想像がつく。赤間関巡見は同地の防備体制を確認する意図を有したであろうし、各地での敬親による高島流教練の見分は、新たな洋式銃陣へ対する領内諸士の意識向上を狙ったものであったろう。

特に注目したいのは、山口に長期滞在していること、山代・都濃・徳地巡見を行っていることである。木部和昭は、文久三年四月の藩府の山口移鎮に伴い、萩を中心とするそれまでの交通・運輸体系が大転換を迫られたこと、その一例として、萩・山代を繋ぐ従来の山代街道が山口・山代を繋ぐ「新山代街道」へと改変されたことを明らかにしている。それによれば、山口から鹿野に至るルートは山口・宮野・仁保・伏野・串・仁保津・鹿野であった（鹿野・本郷は同じ）。これはこの巡見で敬親一行が通ったルートとほぼ一致する。文久元年段階で藩が山口移鎮をどの程度現実性のあるものとして検討

していたかは不明だが、将来もし山口移鎮となった場合、山口を中心とする流通・交通ルートの構築、あるいは軍事的防備体制をどのように図るのかという課題に答えるため、藩主自らが現地を確認するという意図もこの巡見にはあったかもしれない。

藩の記録 この巡見に関する萩藩側の記録としては、毛利家文庫・4忠正公72「赤間関海岸巡見湯田御湯治一件」のほか、32「部寄」の文久元年四・五月分に関係文書がみえる。その中に「山口御湯治録」がある。現在では「部寄」の編綴過程でバラバラにされ日毎に綴られているが、これが巡見に関する藩側のもともまとまった記録であったようである（朱で「皿」の印が捺されている頁）。

【参考文献】

木部和昭「幕末・維新时期の明治における山代街道とその変容」（山口県教育委員会『歴史の道調査報告書4 山代街道』二〇〇二年）

○平成28年度古文書解読自主グループ「けやきの会」

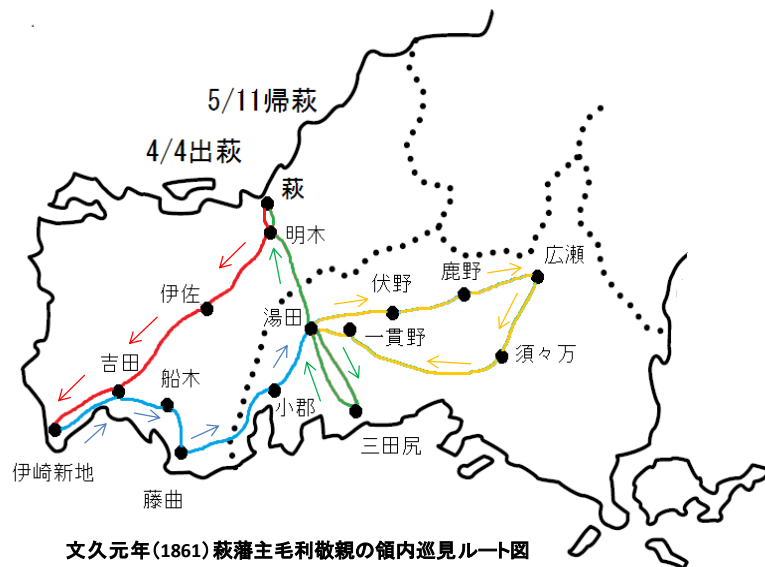
久保田有香・森重由祁子・三好能子・上田蕃穂・山本節子・井本澄江・高田美智子・杉山恵子

（サポート）

山崎一郎・山本明史・吉積久年（山口県文書館）

文久元年(1861)萩藩主毛利敬親の領内巡見行程表

月 日	行 程	宿泊地
4月4日	萩城発→大屋(昼食)→	明木
4月5日	→絵堂(昼食・高島流教練見分)→秋吉→河原村→滝ノ上(切抜見物)→	伊佐
4月6日	→伊佐稽古場(高島流教練見分)→四郎ヶ原(昼食)→茶屋ヶ原→	吉田
4月7日	→鞍馬→長府(昼食)→阿弥陀寺	赤間関伊崎新地
4月8日	→彦島→	
4月9日	→高島流教練上覧・→阿弥陀寺→龜山八幡宮→南部蔵屋敷(昼食)→	
4月10日	*悪天候のため出発延引	
4月11日	→〈船〉→阿弥陀寺→杉ヶ谷→才川→鞍間→小月→〈船〉→埴生(昼食)→厚狭→	船木
4月12日	→在郷諸士弔槍上覧→石井手村→妻崎(昼食・開作見分)→竹ノ子島→中ノ開作→	藤曲
4月13日	→床波→磯地村西福寺→岩倉村→嘉川→	小郡津市
4月14日	→高島流教練弔法稽古見分→仁保津→黒川村→	山口湯田
4月15日	*入湯	
4月16日	→山口御茶屋(高島流教練見分)→平井(川瀬)→障子ヶ嶽→	
4月17日	*入湯	
4月18日	→山口御茶屋(弔槍稽古見分)→入湯	
4月19日	→山口御茶屋(高島流教練見分)→入湯	
4月20日	*入湯	
4月21日	→入湯→湯田若宮八幡宮馬場→入湯	
4月22日	→吉敷(龍蔵寺・滝見物)→	
4月23日	*湯田滞留	
4月24日	→山口御茶屋(高島流教練稽古上覧)→山口大神宮→入湯	
4月25日	→山口御茶屋(教練騎馬隊・美祿郡諸士高島流教練見分)→	
4月26日	→鳳翔山(昼食)→	
4月27日	→吉富藤兵衛宅(御用所用談)→	
4月28日	→宮野→仁保→引谷(昼食)→	伏野(堀村)
4月29日	→串鯖河内村(昼食)→今井村→鹿野市(漢陽寺・切抜見物)	鹿野市
5月1日	→梅ノ宮・河内大明神(昼食)→高木屋村→畑ヶ瀬(御納戸原開作見分)→	広瀬
5月2日	→府ノ谷(滝見物)→隼雄坂峠→本郷(昼食・稽古場・勘場見分)→本郷八幡宮→府ノ谷→	広瀬
5月3日	→野谷峠→須万(昼食)→川ヶ峠→戸谷村→	須々万
5月4日	*雨天につき須々万滞留	
5月5日	→長穂龍文寺(陶墓等上覧)→川上村鋤之床峠→中野村八剏(昼食)→徳地上村→島地→〈川舟〉→二ノ宮→幸峠→一貫野	一貫野
5月6日	→稔畑→終(昼食)→御堀→	山口湯田
5月7日	→問田→毛割→小鯖→切畑→台道(昼食)→佐野峠→大崎川〈舟〉→	三田尻
5月8日	→鞠生稽古場(高島流教練上覧)→御船蔵(諸道具・海岸見分)→〈船〉→中関→田屋(塩浜見分)→	
5月9日	→越氏塾(文学・剣道等上覧)→	
5月10日	→宮市→右田→・鯖山峠→鳴滝泰雲寺(滝見分)→終(昼食)→	山口湯田
5月11日	→平連寺→一ノ坂六軒茶屋→佐々並(昼食)→明木→大屋→	萩帰城



- 4/4出萩～4/7伊崎新地着(～4/11)
- 4/11伊崎新地発～4/14山口湯田着(～4/28)
- 4/28山口湯田発～5/1広瀬着(～5/2)～5/6山口湯田着
- 5/7山口湯田発～5/7三田尻着(～5/10)～5/10山口湯田着～5/11帰萩

凡例

一、当史料は、平成28年度古文書解読自主グループ「けやきの会」が解読したものである。

一、漢字は原則として常用漢字を使用した。

一、変体仮名及び慣用的合字は、「江」(え)、「而」(て)、「者」(は)を除いて、原則として平仮名に改めた。

一、適宜、読点および並列点を付した。

一、抹消部分は原則として省略し、訂正部分をそのまま本文とした。

一、説明として加えた傍注は()で示した。

一、本文右上に小活字()書きで付した数字は、講座で用いたテキストの頁数を示している。頁の区切りには破線を入れた。

一、難読箇所および解読にあたり意見の分かれた箇所には写真で原文を示したことがある。

殿様御巡見并御入湯二付旦那様御供二而

赤間関并南海岸御道中湯田御滞中御供日記

①

(表紙)

文久元酉四月四日より
殿様御巡見并御入湯二付
親施公
旦那様 江戸御参役 御供二而赤間関并
南海岸御道中湯田御滞中御供日記
俣賀又助致事

②

道割・宿割

(美祿郡)
美根郡通赤間関并

南海岸御巡見御宿割并御道割

萩より

売り(大屋)
鶯谷御小休

殿様
酒屋
旦那様
石川屋市右衛門

売り
明木御泊宿

殿様
御茶屋
旦那様
瀧口善左衛門

凡売り半
雲雀山

御野立

絵堂御小休

殿様
藤井久左衛門
旦那様
御宿主和吉

③

後 売り
秋吉御昼

殿様
金子平左衛門
旦那様
日野熊善右衛門

前車角
売り

御野立

売り九丁
河原村御小休

殿様
篠田三左衛門
旦那様
御宿主 嘉平次

九丁余
滝ノ上

御野立

二十六丁余
伊佐御泊宿

殿様
池田猪右衛門
旦那様
村上助右衛門

売り半余
四郎ヶ原御小休

殿様
江崎権右衛門
旦那様
斉藤国右衛門

売り半余
茶屋ヶ原

御野立

売り半余
吉田御泊宿

殿様
御茶屋
旦那様
安部孫左衛門
(陳以下同)

清未領(鞍馬)
売り十六丁
鞍間御小休

殿様御本陣
武中弥五郎
旦那様御本陣
岡田大次郎

二り十一丁
長府御昼

殿様御本陣
松尾孫七
旦那様御本陣
平田喜兵衛

長府領
売り十四丁

殿様
阿弥陀寺
旦那様
新屋吉兵衛

赤間ヶ関新地萩御領
売り十四丁
伊崎御泊宿

殿様御本陣
林八郎右衛門
旦那様御本陣
菅野吉太郎

同三日御滞留

是より御乗船二而殖生浦江御渡之处、

風波二付伊崎より御乗船二而、阿弥陀寺江御上陸之事

④

長府領 壱り半 杉ヶ谷	御野立	長府領(才山) 壱り 幸川	御野立	壱り半 清木領 鞍間御小休	殿様御本陣 武中弥五郎 旦那様御本陣 岡田大次郎	半 小突より白根川御船渡り	殿様 関谷清之進 旦那様 竹山助左衛門	壱り半 埴生浦御昼	二り八丁 厚狭市御小休	殿様 枝村助之進 旦那様 枝村豊七	十四丁 逢坂	御野立	三十丁 船木御泊宿	殿様 御茶屋 旦那様 大庭宗之助	壱り八丁 東高泊 石井手村御小休	殿様 赤川内蔵之助 旦那様 中村源兵衛	壱り 須恵小野田	御野立	三十丁 妻崎御昼	殿様 山根伝左衛門 旦那様 掛部祐藏	十五丁 竹ノ子島	御野立
----------------	-----	---------------------	-----	---------------------	-----------------------------------	------------------	------------------------------	--------------	----------------	----------------------------	-----------	-----	--------------	---------------------------	------------------------	------------------------------	-------------	-----	-------------	-----------------------------	-------------	-----

三十丁 舟木 中野開作御小休	殿様 大田作兵衛 旦那様 野村只助	二十丁 藤曲御泊宿	殿様 名和田金三郎 旦那様 佐貫彦右衛門	壱り半 宇部常盤	御野立	十八丁 床波村御小休	殿様 新八 旦那様 加藤市兵衛	壱り 丸尾崎御昼	殿様 部坂伊左衛門	壱り半 岩倉村御小休	殿様 上野又右衛門 旦那様 上野周藏	壱り十四丁 嘉川市御小休	殿様 河村市右衛門 旦那様 中村伝七	三十丁 小郡津市御泊宿	殿様 御茶屋 旦那様 三原助市郎	式十九丁 仁保津御小休	殿様 林男蔵 旦那様 林良平	十九丁 黒川村	殿様 耕作 旦那様 林次右衛門	二十丁 山口湯田	殿様 御殿 旦那様御旅館 草刈藤太殿宅御借上三相成候事	以上
----------------------	----------------------------	--------------	-------------------------------	-------------	-----	---------------	--------------------------	-------------	--------------	---------------	-----------------------------	-----------------	-----------------------------	----------------	---------------------------	----------------	-------------------------	------------	--------------------------	-------------	--------------------------------------	----

御備付

山口御入湯
御巡見

御備附

駒尻御提灯

市丸組ノ

与右衛門

御馬屋ノ

格右衛門

萩野行衛・松原仁蔵・大賀勇雄

御馬口附

御馬

同 御提灯

瀬尻組ノ

孫平

御馬屋ノ

万右衛門

俣賀又助・坪田宇右衛門・有田隼之助

御道具

御馬屋ノ木工之助

御馬屋ノ

御小人

甚吉

御茶瓶

太助

御弁当

清右衛門

御傘

御馬屋ノ宇兵衛

手明 宇谷組ノ
小兵衛

沓籠 市丸組ノ
与右衛門

夜中駄夫

合羽籠 瀬尻組ノ
孫平

夜中駄夫

御納戸両掛

駄夫一人

⑨

目籠

駄夫一人

目籠

駄夫一人

押駄荷才料

市丸組ノ
忠之丞

⑩

道具持

御用人

須佐地組ノ彦助

石津伝右衛門

御用箱

駄夫
一人

御幕提灯持

駄夫一人

人馬方本ノ筆者兼ル

岩本三郎右衛門

御煮方

御台所ノ伊人

⑪

御銀子方山口湯田御宿御待受御台所方兼ル

兼重五郎兵衛

御台所中間一人

惣人数

一侍九人

一御馬屋中間五人

一組中間七人

内三人帰役

一御台所中間式人

惣人数式拾三人

外二

直横目 一人

駄夫 五人
駄荷 三疋
用心夫 一人

右御備付

一駄荷五疋

右湯田へ直様差越分

(12)

四月四日

殿様

一此度美祢郡通赤間関并南浦海岸

御巡見、直様山口湯田御入湯

二付而者、当時節柄之儀故、御獵懸り

之御供二而御日帰之御唱ニシテ、御減少

備二而被遊御越候二付、

旦那様二も

公儀御賑相を以御供御減少備二而

被遊御供候事、

四月四日 晴天

萩城出立

一今朝正六ツ時御昼二被為成、五ツ時御

供揃二而御庭より後通り被遊

御発駕、一応被遊

御登城、四ツ半時

殿様御発駕二付御見立被遊、直様

御裏式台より被遊御発駕候事、

一御通り筋御奥御馬場通り、御台所

御門、時打御門、天樹院横丁、榎本

角より本丁、中ノ惣門、南片川町、袋

町、慶安橋、水車筋水車二而鉄抱

(13)

細工御覧二而、八丁通り、御許町、

金谷へ御通路、九ツ時鶯谷御立宿

石川屋市右衛門方へ御着之事、

殿様二者酒屋之方御弁当宿二相成候事、

一御弁当被召上御供中何レも弁当

認め、即刻御立二而明木駄御着、

殿様御本陣御茶屋江御伺とシテ直様

被遊御出、少し間相有之御下り御旅館

瀧口善左衛門方へ八ツ半時御着之事、

付り、御宿主門外屋敷境迄

御着御立之節、御迎送り仕候二付、

名披露いたし候事、

同五日 晴天

一今暁七ツ時御昼二被為成、六ツ半時御供揃二而明木

御旅館御発駕二而、御伺とシテ御茶屋へ
御出、六ツ半時明木駅

殿様被遊御発駕候節、御送り有之

直様御発駕被遊候事、

繪堂
宿和吉
一五ツ半時繪堂繪道御昼、宿主和吉方へ

御着、繪道稽古場へ御出、高島流教

練御見分、夫より御宿へ御帰り御昼被

召上御供中縁高飯認メ、四ツ時繪道

御発駕被遊候事、

秋吉
宿日野熊善
右衛門
一九ツ時秋吉御小休、宿日野熊善右衛門方へ

御着、御小弁当被召上御供中弁当

縁高飯認メ、即刻秋吉駅被遊

御発駕候事、

河原村
一九ツ半時河原村御小休、宿主

宿嘉平治
嘉平治方へ御着、御弁当被召上

御供中弁当縁高飯相認メ、即刻河原村

滝ノ上
御発駕、八ツ時滝ノ上御着御野立二而

切抜御覧、即刻滝ノ上被遊

御発駕之事、

伊佐
一七ツ時伊佐江御着、直様御本陣江

御伺とシテ被遊御出、即刻御下り二而

旅館村上助
右衛門
御旅館村上助右衛門方へ七ツ半時

御着之事、

付り、何レも御宿主御迎送り仕

候二付、名披露之事、

付り、地下手子、庄屋御道筋

御先案内仕候事、

同六日 晴天

一今朝正六ツ時御昼二被為成、五ツ時御供揃二而

御旅館御発駕、御伺とシテ御本陣江

被遊御出、無間伊佐駅

伊佐榎場
殿様御発駕御送り被遊、伊佐稽

古場御出、高島流教練稽古御

上覧有之、五ツ半時相済直様被遊

(15)

御発駕候事、

四郎ヶ原
一四ツ半時四郎ヶ原御小休、斉藤

宿斉藤国右
国右衛門方江御着、御弁当被召上惣

御供中縁高飯相認メ、即刻被遊

御発駕候事、

茶屋ヶ原
一九ツ時茶屋ヶ原御着、御野立二而

御小弁当被召上御供中弁当縁高飯相認メ、

即刻被遊御発駕候事、

一八ツ半時吉田駅御着、直様御本

陣御茶屋へ御伺とシテ被遊御出、七ツ時

吉田

旅館安部孫
左衛門

御下り御旅館安部孫左衛門方へ被遊
御着候事、

付り、何レも御宿主御迎送り仕

候二付、名披露之事、

付り、地下手子、庄屋御道筋

御案内仕候事、

同七日 晴天

一 今曉六ツ時御昼被為成、六ツ半時御供

揃二而御旅館御発駕、御本陣御茶屋へ

御伺とシテ被遊御出、無間吉田駅

殿様御発駕二付、御送り有之直様

御発駕被遊候事、

一 五ツ半時鞍間御小休、岡田大次郎方へ

御着、御小弁当被召上惣御供中弁当

(16)

縁高飯相認め、即刻被遊御発駕候事、

清末毛利家使
者桂寿三郎

付り、御旅館江毛 讃岐守様より

御使桂寿三郎方と申仁、御自翰一、

御茶菓子広蓋居ニシテ持来二付、

御式台二而引受早速

上江申上、御答申入引取之節、式台

板之間迄送り候事、

付り、清末家老用人御伺とシテ入来、引受

同様之事、

付り、清末より御通ひとシテ、陣僧兩人御旅館江被差出、

御茶差上候事、

長府藩家老
旅館平田喜
兵衛

一 九ツ時長府御昼、御旅館平田喜兵

衛方へ被遊御着御弁当被召上候、惣御供

弁当縁高飯相認め、即刻御本陣江御伺とシテ

被遊御出、少し間相有之、九ツ過被遊

御発駕候事、

長府藩家老
細川織部・
三吉内匠

付り、御旅館へ長府家老細川織部方・

三吉内匠方御伺とシテ入来二付、御式台二而引受

口上承り引取之節、式台板ノ間迄

送り候事、

付り、長府御通路之節、城下入口町外レ町大年寄罷出候二付、

名披露いたし候事、

阿弥陀寺
旅館新屋吉
兵衛

一 九ツ半時阿弥陀寺御小休、御旅館

新屋吉兵衛方御着、御小弁当被召上

御供中弁当縁高飯認め、即刻被遊御発駕候事、

一 八ツ時赤間関伊崎新地御着、直様御本陣へ御伺とシテ

被遊御出、八ツ半時御旅館管野吉太郎方へ

被遊御着候事、

付り、清末御領・長府御領御通路之節、

御案内者一人押兩人袴着

(17)

被差出御先を払候二付、御供頭より兩人へ
御苦勞之段致相拶、押忠之丞より
祝儀遣候事、

付り、赤間関伊崎萩領二付、手子・庄や
終始御案内仕候事、

同八日 嘯天
赤間関・伊崎新地御滞留、

一今朝五ツ時御昼被為成、五ツ半時御

供揃二而御本陣へ被遊御出、無間

殿様引島海岸御巡見とシテ御出二付、

彦島巡見

旦那様二も御供二而御本陣より直様被遊

御出候節、新地より御乗船、引島江御着

御上陸二而所々被遊御巡見、御帰り之節

も御船江被召せ、新地江御着、御帰り懸

直様御本陣江御伺とシテ御出、八ツ半時

御帰館之事、

付り、御案内者罷出候事、

付り、引島長府領故、長府より御道御案内

者被差出候事、

同九日 伊崎新地御滞留、

会所稽見分 一今朝正六ツ時御昼二被為成、即刻御供

揃二而高島流教練稽古御見分とシテ

会所江被遊御出、無間相濟、五ツ時御旅

阿弥陀寺

館江御帰り、御膳被召上候而、五ツ半時御本
陣江被遊御出、無間

殿様阿弥陀寺龜山江御参詣二付、

宝物開帳

旦那樣直様御供二而阿弥陀寺江被遊
御参詣、宝物開帳、安徳天皇之

御木藏、平有盛、平清経、

平資盛、平教経、平経盛、

平知盛、平教盛、平信基、

平家長、平忠房、平景俊、

平景経、平盛経、平忠光、

二位之尼、平清忠、【圖】墓如図、

八幡宮御拜、直様後ノ山江御登

被遊、赤間ヶ関景色御覧、夫より

龜山八幡宮江御参詣、龜山下ノ

鳩場より御船二而鍋と申所二萩御蔵屋

敷江御着、御昼弁当被召上、御供中

何レも弁当認め、茶山と申所へ御通り、

九ツ半時御帰り懸直様御本陣江御出、

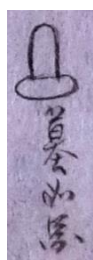
無間御下り、八ツ時御帰館之事、

付り、長府領・清末領御通路之節、

御道案内御先払被差出候二付、

御供頭より御苦勞之段相拶致、押

之者より祝義被下候事、



赤間ヶ関町方名付

長府領

檀ノ浦

同

阿弥陀寺

同

外ヶ浜町

同

中ノ町

同

赤馬町

同

西ノ端町

同

東南部トモ

同

城ノ腰町

同

田中町

同

国司町

同

南部町

同

東細江トモ
観音崎町

(マ)

御出無間、赤間ヶ関伊崎

赤間関出発

殿様御発駕二付御送り有之、直様被遊

新地乗船

御発駕候而、新地より御乗船二而阿弥

阿弥陀寺

陀寺江御着船、夫より被遊御上陸候事、

杉ヶ谷

一五ツ半時長府領杉ヶ谷御着、御野

立、即刻御発駕之事、

才川

一四ツ時長府御通路幸川江御着、

御野立二而御小弁当被召上、御供中

弁当認め、即刻御発駕之事、

長府通行

付り、長府御通行之節、町大年寄

城下入口城下外レ江罷出候二付、

名披露いたし候事、

付り、長府御本陣御道口罷出候

二付、名披露いたし候事、

菅野吉太郎

付り、伊崎御宿主菅野吉太郎宰川迄御見送とシテ

罷出候二付、名披露いたし候事、

鞍間

宿岡田大次郎

一九ツ時清末鞍間御小休、岡田大次郎

方へ御着、即刻御発駕之事、

付り、清末より御通ひとシテ陣置兩人

御旅館江被差出、御茶差上候事、

付り、長府清末領御通行之節、御道

御案内押被差出候二付、御供頭より

相摺仕、押之者より祝義被下候事、

(小月)

一九ツ過小突より白根川御船渡り二而、

小月
白根川

増生浦

宿竹山助右

増生浦御昼宿竹山助右衛門方江

御着、御昼被召上、御供中縁高飯

相認め、八ツ時御発駕之事、

(20)

厚狭

宿枝村豊七

一七ツ時厚狭市御小休、宿枝村

豊七方御着、御小弁当被召上、御供中

縁高飯相認め、即刻被遊御発駕候事、

船木

一七ツ半時船木御泊へ御着、直様御伺

とシテ御本陣御茶屋へ被遊御出、薄暮

旅館大庭宗之助

御旅館大庭宗之助方へ御着之事、

付り、村々地下手子・庄屋終始御先

御案内仕候事、

付り、何レも宿主御迎送り仕候二付、名披

露いたし候事、

同十二日 晴天

一今朝正六ツ時御昼被為成、六ツ半時御供揃

二而御旅館御発駕、御本陣御茶屋江被遊御出、即刻船木駅

殿様被遊御発駕御送り有之、少し御跡へ御残り被遊候而、在住諸士釧槍被遊

御見分、五ツ時御発駕之事、

石井手村
旅館中村源兵衛

一五ツ半時石井手村御小休、御旅館中村源兵衛方御着、御小弁当被召上、

惣御供中縁高飯相認め、即刻被遊御発駕候事、

妻崎
旅館掛部祐藏

一四ツ半時妻崎御昼御旅館掛

部祐藏方へ御着、御昼弁当被召上、

惣御供中縁高飯相認め、即刻被遊御発駕候事、

(21)

妻崎開作見分
竹ノ子島

一九ツ時御開作御見分相済、竹ノ子島御野立、即刻御発駕之事、

中ノ開作
旅館野村只助

一八ツ時中ノ開作御小休、御旅館

野村只助方へ御着、御小弁当被召上

惣御供中縁高飯相認め、即刻

御発駕之事、

藤曲

一八ツ半時藤曲駅御着、直様御

本陣江御伺とシテ被遊御出、即刻御下り

旅館居能村佐
貫彦右衛門

(尾越)
御旅館井尾村佐貫彦右衛門方へ被遊御着候事、

付り、村々替相地下手子・庄屋

御道御案内仕候事、

付り、御旅館之宿主何レニ而も

御迎送り仕候ニ付、致名披露候事、

同十三日 雨天

一今暁七ツ時御昼ニ被為成、六ツ時御供揃

二而御旅館御発駕、御本陣江被遊

御出、無間藤曲

殿様御発駕御送り有之、直様被遊

御発駕候事、

床波
旅館加藤市平

一四ツ時床波村御小休、御旅館加藤

市平方江御着、御小弁当被召上、惣御

供中縁高飯相認め、即刻被遊御

(22)

丸尾崎
風雨

発駕候処、風雨強ク候故、丸尾崎

御通路之处、急ニ床波村より御近道

被遊、磯地村江御通り、同所ニ而西福

寺と申寺借受、少し御休被遊、即刻

御発駕之事、

付り、丸尾崎御昼ニ候へ共、大風雨

二而御廻り無之、直ニ岩倉村江御越

被遊候事、

一八ツ時岩倉村御小休、御旅館

旅館上野周蔵 上野周蔵方江御着、御小弁当被召上、

惣御供中縁高飯相認め、即刻
被遊御発駕候事、

嘉川村 一七ツ時嘉川市御小休、御旅館
旅館中村伝七

中村伝七方江御着、御小弁当被召
上、惣御供中縁高飯相認め、即刻
被遊御発駕候事、

小郡津市 一七ツ半時小郡津市御泊、御旅
旅館三原助 館三原助市郎方江御着、被遊

本陣御茶屋 御召替、即刻御本陣御茶屋江

被遊御出、御酒御頂戴有之、暮六ツ
半時御旅館江御帰之事、

付り、惣御供中江も

殿様より御酒頂戴被仰付候由二而、

御旅館江持来二付頂戴仕候事、

(23)

付り、御旅館之御宿主何レも門外

御迎送り仕候二付、名披露

いたし候事、

付り、村々替相二而地下手子・庄屋

御道御案内仕候事、

十四日

一今朝正六ツ時御昼二被為成、四ツ時御

供揃二而御旅館御発駕、

殿様稽古上覧有之候二付、御旅

稽古場見分 館より直様稽古場江被遊御出、高

島流教練劔法稽古御見分、即

刻相済、小郡津市

殿様御発駕二付、稽古場より

直様御発駕被遊候事、

仁保津 一四ツ半時仁保津御小休、御旅館
旅館林良平 林良平方江御着、御小弁当被召上、

惣御供中へ茶菓子・あん^(餠)・縁高

飯差出候二付相認め、即刻被遊

御発駕候事、

黒川村 一九ツ時黒川村御小休、御旅館
旅館林次右 林次右衛門方江御着、御小弁当被召上、

惣御供中縁高飯相認め、即刻

被遊御発駕候事、

(24)

山口湯田 一九ツ半時山口湯田江御着、直様

御殿江御伺とシテ被遊御出、八ツ時御

旅館江御機嫌克被遊御着駕

候事、

付り、御旅館宿主何レ二而も門外

江御迎送り仕候二付、名披露

問田益田家
使者

致候事、

付り、村々交代ニ而地下手子・

庄屋御道御案内仕候事、

一益田伊豆様より御使者御道口被差

出候事、

湯田御滞留中

十五日

一今朝六ツ半御昼ニ被為成、五ツ時御

供揃ニ而御伺とシテ

御殿江被遊御出伺、御下り懸被遊御

入湯候ニ付、御供侍計り御添湯仕、

九ツ半時御帰館、御昼被召上、七ツ時

御供揃ニ而御湯へ御出、被遊御入湯

御添湯士計り湯入ニ而、六ツ時御帰

館之事、

付り、御滞留中地道相成士

四人、御小人・手明・御道具・御傘

ニ而御出伺之事、

(35)

付り、御入湯ニ御出之節、都合同様

御傘無シ之事、

付り、其外御歩行之節も同様、

尤雨天之節ハ合羽籠一、目籠

一被召連候事、

付り、御滞留中御旅館長屋江手

子・庄屋交代ニ而入込、御案内

仕候事、

同十六日

一今朝六ツ半時御昼ニ被為成、五ツ半

時御供揃ニ而

御殿被遊御出伺、

殿様山口江御歩行ニ付、直様御

供ニ而山口御茶屋へ被遊御出、

高島流教練上覽有之、即刻

相済、御弁当被召上、平井河原

江御川獵とシテ被遊御出、九ツ半時

御帰り懸小路(鷹子ヶ岳)ヶ嶽江御上り被遊、御遠見

被遊、御帰り懸御入湯、七ツ時

御帰館之事、

付り、御供中休足所仕構有之、

休足仕、弁当公儀より仕出相成

候ニ付相認め候事、

(36)

付り、地下手子・庄屋御案内

仕候事、

入湯

付り、御添湯前二同断、

同十七日

一今朝正六ツ時御昼被為成、五ツ時

御供揃二而

入湯

御殿江御出懸、御湯

治、直様御出伺、九ツ時御帰館、七ツ

時御入湯二被遊御出、六ツ時御帰

館之事、

付り、御案内者前二同断、

付り、御添湯前二同様之事、

同十八日

一今朝六ツ時御昼二被為成、五ツ時御供揃

二而

御殿江被遊御出伺、四ツ時より

山口御茶屋

殿様山口江釵槍稽古御覽とシテ御出

二付、直様御供二而山口御茶屋へ被遊

御出、稽古相済、御弁当被召上、八ツ時

入湯

御帰り懸直様御入湯、御添湯前二

同様、七ツ時御帰館之事、

付り、御供中休足所仕構有之、

休足仕、弁当相認め候、尤弁当

公儀より仕出相成候事、

付り、御案内者前二同断、

同十九日

一今朝六ツ時御昼二被為成、五ツ時御供揃

二而

山口御茶屋

御殿へ被遊御出伺、今日山口於御茶

教練上覽

屋高島流教練

上覽二付、五ツ半時山口御茶屋御出、

稽古御覽相済、御弁当被召上、八ツ

入湯

時御帰り懸直様御入湯、御添湯

前二同様、八ツ半時御帰館之事、

付り、御供中休足所、弁当昨日

同様之事、

付り、御案内者昨日同断、

同廿日

一今朝六ツ時御昼二被為成、五ツ半時

御供揃二而被遊御出伺、御下り懸

直様御湯治、九ツ時御帰館、八ツ時

湯治

御湯治とシテ被遊御出、即刻御帰館之事、

付り、御添湯前二同断、

付り、御案内者前二同断、

同廿一日

湯治

一今朝六ツ半時御昼ニ被為成、五ツ半時御供揃二而被遊御出伺、御下り懸直様御湯治、九ツ時御帰館、八ツ時御供

湯田若宮八幡宮馬場

揃二而湯田若宮八幡宮馬場江御

入湯

出、御馬江被召、御帰り懸直様御入湯七ツ時御帰館之事、

付り、御添湯前二同断、

付り、御案内者前二同断、

同廿二日

一今朝六ツ時御昼ニ被為成、五ツ半時御供

揃二而被遊御出伺、今日

吉敷毛利家領

殿様良城毛 (吉敷) 出雲様御領、滝川之龍蔵寺之

龍蔵寺の滝

滝御覽とシテ、四ツ時御出二付、

御殿より直様御供二而被遊御出候節、

龍蔵寺本堂江御通り、惣御供中

下宿江下り、弁当認め致休足

居候処、

上二者寺二而御弁当被召上、滝御覽

相済候二付、寺より御供廻り申来候二付、

即刻参り、七ツ時御帰館之事、

付り、御供中下宿、寺より二丁程下り

松原文之助

仕構有之、案内者手引仕候、弁

当士分縁高飯、中間分竹之

皮包ニシテ、与敷より仕出相成候事、

付り、下宿江相拶(挨拶)とシテ松原文之助と

申仁度々入来之事、

付り、御供士六人、御小人、手明、御馬

口付二人、御道具、合羽籠袍、

目籠袍被召連候事、

付り、良城御領境より御道御案内

壱人、押袴着壱人、御徠共二 (吉敷) (下記写真参照)

被差出候二付、手明より押之者へ祝義

銀式匆被下候、御供頭より御苦勞

之段相拶いたし候事、

同廿三日

一今朝六ツ時御昼ニ被為成、五ツ時御

供揃二而被遊御出伺、九ツ時御帰

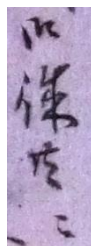
館之事、

付り、御案内者前二同断、

同廿四日

一今朝六ツ時御昼被為成、五ツ時御供揃二而

被遊御出伺、今日山口江萩より数十人高島



流教練稽古とシテ参り候ニ付、

教練上覽

殿様御覽とシテ御茶屋へ御出ニ付、御供ニ而

直様御茶屋へ被遊御出、稽古相済

山口大神宮

御帰り懸大神宮江御参詣、九ツ半時

湯治

御帰館、御昼被召上、即刻御湯治とシテ

御出、八ツ時御帰館之事

付り、御添湯士分計り之事

付り、御案内者前ニ同断

同廿五日

一今朝六ツ時御昼ニ被為成、今日山口江萩より

(30)

教練騎馬隊とシテ二十疋参り候ニ付、

殿様御覽ニ付、五ツ時御供揃ニ而山口

山口御茶屋

御茶屋江殿様

騎馬隊教練
上覽

殿様より御先江被遊御出、騎馬隊

御覽相済、御弁当被召上候而、美祢郡

諸士高島流教練御見分相済、七ツ

時御帰館之事

付り、御供中休足所仕構有之候ニ付、

休足仕弁当認め候、尤今日も弁当

公儀より仕向相成候事

付り、御案内者前ニ同断

同廿六日

一今朝六ツ時御昼被為成、五ツ半時御供

揃ニ而被遊御出伺、四ツ時御下り懸直

鳳翔山

様良城之鳳便と申山江被遊御登、

諸方被遊御遠見、御弁当被召上、惣

御供中弁当認め、七ツ半時御帰館之事、

付り、御案内とシテ三四人参候事、

付り、惣御供中にきり飯之事、

同廿七日 雨天

一今朝六ツ時御昼被為成、五ツ時御供

揃ニ而被遊御出伺、九ツ時一応御帰

吉富藤兵衛

館、御昼被召上、即刻御供揃ニ而吉富

藤兵衛方部屋御借受相成、御用処相立、御

(31)

用談とシテ被遊御出、御用談相済、御帰

り懸直様被遊御出伺、七ツ時御帰

館之事

付り、御供中休足所、吉富藤兵衛方居宅仕構有之、

只様御誘取候処、重箱肴ニ而酒差出候、

茶菓子をも出候事

山代・徳地
見分道割り

同廿八日

山城・徳地御代見
御道割

湯田より 二り

宮野

十八丁

仁保市御小休

二り

引谷御昼

廿八日

二り十八丁

伏野御泊

一り十八丁

串鯖河内村

二り

仁保津御小休

廿九日

一り

鹿野市御泊

洪川

米山 六り

秘密尾

御徳山領

高木屋御昼

御納戸原
御開作有之

(32)

同所御小休

畑ヶ瀬

同原御納戸御開作御見分

原村御小休

御野立

御本陣

久富磯右衛門

御本陣入亭主

岡田和吉

御本陣入亭主

三井又四郎

御本陣御小休入亭主

岡田和吉

御本陣入亭主

阿部藤兵衛

御本陣大庄屋

勝間田信右衛門

御野立

御野立

御野立

御本陣

上田安八

御野立

御本陣

高石伝作

五月朔日

広瀬御泊

府ノ谷村御小休

隼雄坂

本郷御昼

隼雄坂

府ノ谷村御小休

二日

広瀬御泊

野谷 一り

須万村御昼 一り十八丁

戸谷村御小休 二り十八丁

三日四日

須々万御泊 雨天二付一日御滞留

御本陣
城 藤四郎

長穂御小休 一り

龍文寺
入亭主

町田友之助

御本陣入亭主

末光小兵衛

御本陣

田原用之進

御本陣

宇多田四郎兵衛

御本陣 黒沢宇塚村庄屋

大林繁太郎

御本陣入亭主

高石伝作

御野立

御本陣入亭主

栄助

御野立

御本陣入亭主

高石伝作

御本陣

大林繁太郎

御野立

御本陣

鶴岡清右衛門

御本陣

岸村伊兵衛

是より御川舟

(33)

二り 此間御川船

二ノ宮江御揚陸二而

五日

一り十五丁

壹貫野御泊

御本陣 御内輪庄屋
岡利兵衛

一り十八丁(総廻)

宇津木畑村御小休

半蔵

一り

柁村御屋

御本陣 当島屋九郎右衛門

十八丁(御廻)

身堀御小休

福田伊右衛門

六日

一り

湯田御着 三田尻へ御出

七日湯田御登駕三而

問田御小休

御野立

御益田伊豆様御領

入亭主

毛割村御小休

市郎右衛門

小鯖村御小休

御野立

庄屋

切島御小休

原田平次郎

御内輪御家来御下り

小俣之内大道御昼

三好三郎右衛門

佐野御小休

御野立

七日八日

三田尻御泊

御本陣 (韋四郎)
五十君亭四郎

同日御滞留

九日 三田尻
御登駕二而秋御帰城

十八丁
宮市

殿様御小休御本陣
甲部善之助

三十丁

右田 毛 筑前様御領

御通行

一り三丁
鯖山坪

殿様御小休
茶屋

(34)

一り(鳴滝)
鳴瀬御小休

泰雲寺

十八丁

柁御昼

殿様御本陣
福殿院

旦那様同断

当島屋九郎右衛門

十日

湯田御泊

殿様御茶屋御本陣也

旦那様御本陣

入亭主

(岡本勇蔵
三輪伊兵衛
藤本弥兵衛)

十八丁

平連寺縄手

御野立

一り

六間茶屋御小休

殿様御本陣茶屋也

旦那様御本陣茶

藤屋十郎右衛門

(六軒茶屋)

一り
佐々並御昼

殿様御本陣御茶屋

旦那様御本陣

木村作兵衛

一り

明木御小休

殿様御本陣御茶屋

旦那様御本陣

原 善助

一り
鶯谷御小休

殿様御本陣酒屋

旦様御本陣

石川屋市右衛門

十一日
萩御着

(36)

四月廿八日

湯田出発

一 今朝正六ツ時御昼二被為成、即刻御供
揃二而湯田被遊

御発駕候事、

付り、湯田山口之坂江山口町罷出候

二付、名披露いたし候事、

宮野村
中野長蔵

一 五ツ半時宮野村御小休、中
野長蔵方へ御着、少し御休、即刻

御発駕之事、

仁保市
本陣久富磯
右衛門

一 四ツ時仁保市御小休、御本陣久富磯右衛門
方御着、御小弁当被召上、惣御供中
握飯差出相認め、即刻御発駕之事、

引谷村
入亭主岡田
和吉

一 四ツ半時引谷村御本陣、入亭主
岡田和吉、家主謙蔵方御着、御
昼被召上、惣御供中縁高飯差出候
相認め、即刻被遊御発駕候事、

伏野村
本陣東光坊
入亭主三井
又四郎

一 八ツ時伏野村御泊、御本陣真言東光坊、
入亭主三井又四郎方
御着之事、
付り、夜中御酒事有之、御前へ被召出
御酒頂戴仕候事、

同廿九日

一 今朝六ツ時御昼二被為成、五ツ時御供
揃二而伏野村被遊御発駕候事、

串鯖河内村

一 四ツ時串鯖河内村御昼御本陣、

本陣本光寺

入亭主岡田
和吉

主本光寺、入亭主岡田和吉方

御着、御昼被召上、惣御供中縁高飯

認め、即刻被遊御発駕候事、

今井村

一 今井村、是より山城郡也、

鹿野市

一 八ツ時鹿野市御着、駒頭二而

漢陽寺切抜

水を取候处、同所上村漢陽寺

宝物

後ノ切抜、漢陽寺法物被遊

御覽、即刻御発駕之事、

付り、山切抜六十間、駒頭水道十七間、

立木一丈式尺、水口之方八尺之事、

本陣勝間田
信右衛門

一 七ツ時鹿野市御泊、御本陣
勝間田信右衛門方へ御着被遊候事、

五月朔日 四ツ時より雨天

一 今曉七ツ時御昼二被為成、六ツ半時
御供揃二而鹿野市被遊御発駕候事、

渋川杉ノ埵

付り、鹿野より渋川杉ノ埵馬ふん山ノ

尾流也、是を御越候節、左之方へ当り

馬糞ヶ岳

馬糞ヶ岳
馬糞ヶ嶽と申而、山城一番之高山二而、

宮島 山上より者宮島、大島郡其外諸方

相見候様申事二候へ共、雨天相成候

故、御登り無之候事、

高木屋嶽 一 九ツ時高木屋之内嶽と申所二而、
梅ノ宮河内大明神社内ニ而御昼

御弁当被召上、惣御供中縁高飯認

メ、即刻被遊御発駕候事、

付り、雨天ニ付右様之次第相成候事、

(37)

高木屋村 一 九ツ半時高木屋村御小休、上田
宿上田安八

安八方御着、少し御休、即刻被遊

御発駕候事、

畑ヶ瀬 一 八ツ時畑ヶ瀬御野立二而、御納戸
御納戸原開作

原御開作御見分被遊、即刻被遊御

御発駕候事、

広瀬原村 一 同刻広瀬原村御小休、高石
宿高石伝作

伝作方御着、御小弁当被召上、惣御

供中握飯認メ、即刻被遊御発

駕候事、

広瀬村 一 七ツ時広瀬御泊、御本陣黒
本陣黒沢宇塚
村庄屋大林繁
太郎

沢宇塚村庄屋大林繁太郎方

御着被遊候事、

二日

一 今朝六ツ時御昼被為成、五ツ時御供揃

二而広瀬被遊御発駕候事、

府谷村とう 付り、広瀬村之内、府ノ谷村二
とをくくと申滝有之、誠二景

色宜敷滝也、

府谷村 一 五ツ半時府ノ谷御小休、御本陣蔵
本陣蔵万寺
入亭主高石
伝作 万寺、入亭主高石伝作御着、御
茶菓子御小弁当被召上、惣御供中

握飯認メ、即刻被遊御発駕候事、

集雄坂峠 一 四ツ時集雄坂峠御野立、少し御休、
即刻被遊御発駕候事、

山代本郷 一 九ツ時山城本郷御昼、御本陣
山代本郷

(38)

本陣建立寺 建立寺、入亭主采助御着、御昼
入亭主采助

被召上、惣御供中縁高飯吸物相添

差出相認メ、少し御休、九ツ過御発駕

稽古場・勘 二而、稽古場・勘場御見分、夫より正
場見分

本郷八幡宮 一位八幡宮江御参詣被遊候而、即刻

被遊御発駕候事、

府谷村 一 七ツ時府ノ谷御小休、御本陣蔵
本陣蔵万寺
入亭主高石
伝作 万寺、入亭主高石伝作方御着、御

小弁当被召上、惣御供中握飯相認メ、

即刻被遊御発駕候事、

広瀬村 一六ツ時前広瀬御泊、御本陣大
本陣大林繁
林繁太郎方被遊御着候事、

付り、勘場居合手子中

名披露之事、

同三日

一今朝正六ツ時御昼ニ被為成、六ツ半時御供
揃ニ而広瀬被遊御発駕候事、

野谷埜 一五ツ半時野谷埜御野立ニ而、少し

御休、被遊御発駕候事、

徳山藩領 付り、野谷埜より須万徳山領ニ付、

埜へ徳山より御道御案内とシテ庄屋代

畔頭被差出、尤徳山領之間村々交代

ニ而御案内仕候、交代之節者御供頭より

御念入御苦勞之段致相拶、押之者より

祝義被下候事、

須万町
本陣鶴岡清
右衛門 一四ツ時須万御昼、御本陣鶴岡

清右衛門方御着、御弁当被召上、惣御供

(39)

中縁高飯認メ、少し御休、被遊御

発駕候事、

付り、須万町少し萩御領有之

候ニ付、其処右御昼ニ相成候事、

一町徳山領之方江須万村・徳山庄屋兩人

御道口へ罷出候ニ付、名披露致候事、

徳山郡代井
上為造 一御昼御本陣へ徳山郡代井上為造

方より手子吉村又兵衛と申仁、当村御通

行ニ付、人馬其外御用向有之候ハ者

被仰付被下候様ニ(上略)の事ニ而入来之由ニ付、

山城御代官佐々木八郎兵衛殿へ引受

方之義相頼、彼方ニ而引受相成、右之

様子被申越候事、

付り、御本陣手狭故、前方右様子

相聞へ候故、右之通り御代官へ相頼

相済せ候事、尤出合之義者

御代官手子出合候様申事ニ候事、

川ヶ埜 一川ヶ埜ニ御野立有之候事、

付り、徳山領也、

戸谷村 一八ツ時都濃郡戸谷村御小休、

御本陣岸村伊兵衛方御着、御小

弁当被召上、惣御供中握飯相認メ、

即刻被遊御発駕候事、

須々万
本陣城藤四郎 一七ツ時都濃郡須々万御泊、御本陣

城藤四郎方江御着被遊候事、

同四日

(40)

一雨天ニ付須々万御滞留之事、

水羊羹

付り、御夕飯後御茶事有之、水羊羹於御前頂戴候事、

五日

一 今朝七ツ半時御昼被為成、六ツ半時御供揃二而須々万被遊御発駕候事、

長穗村
龍文寺
入亭主町田友之助

一 四ツ時長穗龍文寺御小休、入亭主町田友之助御着、御小弁当被召上、寺より

昆布御菓子茶差上、被召上、惣御供中握飯認メ、土分へ者寺より菓子茶差出、

即刻被遊御発駕候事、

陶越前守墓

付り、龍文寺へ御着、直様寺上ノ山二(盛政カ)陶越前守墓御覽、寺江御通り被遊、

豊臣秀吉位牌

太閤秀吉公御位牌御法号

国泰寺殿靈山俊龍大居士御拝、

御寺内御通り路役僧御誘引仕、

開山墓

御歸り懸開山墓江御参詣、其縁二

墓印の松

墓印と而松一本有之、其松江

毛はえる之事妙也、

太道理村

一 徳山領太道理村龍豊寺ニ陶

龍豊寺
陶尾張守奥
方位牌

(尾張守の誤り、弘護越前守奥方之位牌御法号龍咲山妙听太姉)

豊寺殿笑山妙斬太姉墓、門

杉・松

前より壺丁程先右ヶわ畠之中、杉一

本・松一本有下二有之、左ヶわ向イ田

尺丈の松

痘瘡

之上三尺丈と言松有之、根二又也、子共此下をくゝれ者、痘瘡輕しと言也、

付り、此奥方御当家御入被遊候様

申寺之申伝と僧申候事、

④

付り、長穗・太道理村徳山領二付、庄屋

代畔頭御道御案内とシテ罷出候而、

村々交代之節御供頭より御念入

御苦勞之段致相拶、押之者より

祝義被下候事、

川上村鋤之一四ツ半時川上村之内鋤之床埵

御野立之事、

中野村八初

一九ツ時中野村之内、八初村御昼、

入亭主中野村庄屋末光小兵衛

入亭主中野村庄屋末光小兵衛方

御着、御昼被召上、惣御供中縁高飯

認メ、即刻被遊御発駕候事、

宿吉敷毛利家

付り、宿主毛 (吉敷毛利) 出雲様御内池

家臣池田周伯

田周伯殿宅也、

徳地上村

一 八ツ過徳地上村市御小休、御本陣

本陣田原用之進

田原用之進方御着、御小弁当被召

上、惣御供中握飯認メ、即刻被遊

御発駕候事、

島地
本陣宇多田
四郎兵衛

川船場

一七ツ時徳地之内、島地御本陣宇
多田四郎兵衛方へ一応御着、御茶菓子
被召上、惣御供中茶菓子相認め、川
船場より御船仕構宜段申来候二付、
直様御発駕二付、川船場江被遊御
乗船、御召船江御供士分四人、御小人、
直横目、御道具・御茶瓶積せ、御手元小川
市右衛門殿、徳地下代森永熊次郎方
地下手子白木勘右衛門乗組二而
出船、御順克御下り、船中二而御小
弁当被召上、惣御供中握飯島地
宿より用意、船中二認め候事、

二ノ宮

一暮六ツ前二ノ宮江御着船、御上陸
二而二ノ宮江被遊御参詣、直様御発駕
之事、

一貫野

付り、島地御泊之处、急二壹貫野へ御先
越三相成候二付、島地御泊之处、
御小休二而御乗船之事、
付り、外二船式艘御供下分御荷
物積下り候事、

幸埜

一山口幸判幸埜御野立二而
少し御休、即刻被遊御発駕候事、

本陣庄屋岡
利兵衛

一夜二入、四ツ時御領分壹貫野御本陣、
御内輪庄屋岡利兵衛方江被遊
御着候事、

同六日

一今晚七ツ時御昼被為成、正六ツ時御供
揃二而壹貫野被遊御発駕、御領分
被遊御巡見候事、

桧畑村
半蔵

田植え
田植女

一五ツ時宇津木畑村御小休、半蔵方へ
御着、御茶被召上、即刻被遊御発駕候事
付り、田植最中二而田植女六七人
苗献上仕、銀二両被下候事、

終村
当島屋九郎
右衛門

一四ツ時終村御昼当島屋九郎右衛門方へ
御着、御昼被召上惣御供中壹重
壹菜ニシテ茶漬差出相認め、即刻被遊
御発駕候事、

御堀村
福田屋伊右
衛門

一九ツ時身堀御小休、福田屋伊右衛門方
御着、御茶・外郎差上被召上、惣御
供中茶・外郎差出相認め、即刻
被遊御発駕候事、

外郎

湯田

一九ツ半時湯田御旅館江
御機嫌克被遊御着、少し御休、
八ツ時御供揃二而

御殿へ被遊御出伺、七ツ時御帰館之事、
付り、湯田・山口之境江山口町人
御道口江罷出、披露仕候事、

同七日 湯田御発駕之事

一今朝七ツ時御昼被為成、六ツ時御供
揃二而一応

御殿江被遊御出伺、六ツ半時

殿様御発駕御送り被遊、直様御

発駕之事、

問田

一五ツ半時問田二而茶屋へ御小休有之、

即刻御発駕之事、

付、益田伊豆様御領二付、家老須子

問田益田氏
家老須子幸
右衛門

幸右衛門御備見受、追懸一切存不申

故御先押も差出不申、御小休をも仕

構不申、甚御無礼仕候段御断申上候

様ニの事ニ而、御備江追懸被参候事、
(と脱)

一四ツ時毛割村御小休、景好寺

毛割村
景好寺
入亭主市郎
右衛門

入亭主市郎右衛門御着、御小弁当被召
上、惣御供中握飯認メ、即刻被遊

御発駕候事、

小鯖村

一四ツ半時小鯖村御小休、百姓屋二
而御野立同様少し御休、即刻被遊

御発駕候事、

切畑村
宿庄屋原田
平次郎
一 九ツ時三田尻宰判切畑御小休、
(切畑)

庄屋原田平次郎方へ御着、御菓子

茶差出、御小弁当被召上、惣御供中へ

も菓子茶差出、握飯差出認メ、即

刻被遊御発駕候事、

台道村
小郡宰判
一 九ツ過小俣村内大道御昼、御内輪

御家来三好三郎右衛門方御下り被遊

御式事事相済、御酒・御膳被召上、

惣御供中へも茶菓子・取肴鉢・

重箱肴ニ酒被差出、膳一重三菜ニシテ

被差出相認メ、八ツ過被遊御発駕候事、

付り、門外三好三郎右衛門父子・中川

正吉・福澄勇、門内三好三郎右衛門

内・同娘御迎送り仕候二付、名披

露致候事、

佐野埵
一 八ツ半時三田尻宰判佐野埵御野

立、即刻御発駕、大崎川御川船

二而御渡り之事、

三田尻
一 七ツ半時三田尻御着、直様

御茶屋江被遊御出伺、即刻御下り、

御本陣五十君享四郎方御着駕

被遊候事、

本陣五十君
享四郎

付り、三田尻御茶屋御本門御通路

之儀者、殿様御備江引続キ被遊御

出伺候へ共、御門開居有之御通路相成、

殿様御備江間相有之、被遊御出伺

(45)

候へ者御門相べり候故、通用御門之方より

御通路被遊候様ニ相成候間、其心得を以

所勤肝要之事候間、御詮儀ニ而

御所勤之事、

同八日 三田尻御滞留

一今朝六ツ時御昼被為成、五ツ時御供揃

鞠生稽古場

ニ而御茶屋江被遊御出伺、鞠生稽

古場ニ而高島流教練

殿御覧ニ付、四ツ時御茶屋より直様

御供ニ而被遊御出、九ツ時相済、直様

御茶屋へ被遊御出、御昼御弁当被召上、

惣御供中御供帰りニ而昼飯認め、

即刻御迎ニ参り、直様御下り、一応

御帰館之事、

御船蔵

一九ツ時御供揃ニ而御船蔵江被遊御出、

御召船其外諸道具御見分、直

堀口番所

様堀口御番所前より御乗船ニ而、

中関

海岸御見分被遊御出、中関江御着

加藤伝蔵

船、御上陸ニ而御小休、加藤伝蔵方江

御着、御茶菓子差上、御小弁当

をも差上、惣御供中へも握飯差出

相認め、即刻御発駕ニ而御陸通り、

田屋口辺り
塩浜

田屋口辺塩浜御見分、七ツ半時御帰館之事、

付り、周布政之助殿・中村道太郎殿・

周布政之助
中村道太郎

御筆者亀三郎殿・三田尻御算用方

御付廻り之事、

付り、御供士分四人、御小人、手明、御道具

被召連候事、

(46)

同九日 同所御滞留

一今朝六ツ時御昼被為成、五ツ時御供

越氏塾稽古場

揃ニ而御茶屋江被遊御出伺、即刻

越氏塾稽古場ニ而、文学・劔槍

殿様御覧とシテ御出ニ付、直様御供ニ而

被遊御出、上覧相済、九ツ時御帰り懸

直様御茶屋江被遊御出伺、即刻

御帰館之事、

付り、御滞留中庄屋・畔頭・

受村手子御宿江入込居、

御出之節者御先御案内

仕候事、

同十日

一 今暁七ツ時御昼被為成、六ツ時御供揃

二 而御本陣御発駕、直様御茶屋江

被遊御出伺、六ツ半時

殿様御発駕御送り被遊、直様御本

門より引続御発駕被遊候事、

一 五ツ時宮市御小休、脇本陣中村

善左衛門方御着、御茶菓子被召上、

惣御供中菓子茶認メ、即刻御発

駕之事、

一 右田御通行二付、右田御領境より

御領間御先扨兩人被差出候二付、

御供頭より御念入御苦勞之段、相拶

(47)

押之者祝義被下候事、

山口幸判

鯖山埜

一 四ツ時鯖山埜御小休、茶屋

茶屋文左衛門

文左衛門方御着、御小弁当被召上、

惣御供中握飯認メ、即刻御発

駕之事、

白坂山

一 付り、此間白坂山ノ麓、往還根

吉岡一味齋臺

山口へ行者左之ヶ輪吉岡一身齋臺有之、

一 四ツ半時鳴滝泰雲寺御参

泰雲寺

詣被遊、御菓子茶被差上、惣御供

後の山滝

中へも茶菓子被差出、

旦那様後ノ山滝御見分、直様

被遊御発駕候事、

付、山内役僧御案内被致候事、

終
当島屋九郎
右衛門

一 九ツ時終御昼、当島屋九郎右衛門方

御着、御昼被召上、惣御供中縁高

飯認メ、即刻被遊御発駕候事、

湯田

一 八ツ半時湯田御泊へ御着、直様

御殿へ被遊御出伺、即刻御下り、

御旅館へ被遊御着候事、

入亭主岡本
勇蔵・三輪伊
兵衛・藤本弥

付り、入亭主岡本勇蔵・三輪

伊兵衛・藤本弥兵衛御迎とシテ

罷出候二付、名披露之事、

同十一日

(48)

一 今暁七ツ時御昼被為成、六ツ時御供揃

二 而湯田御旅館御発駕二而、一応

御茶屋へ被遊御出伺、六ツ半時

殿様御発駕御送り被遊、直様湯田

被遊御発駕候事、

付り、入亭主三輪伊兵衛・岡本勇

蔵・藤本弥兵衛御送りとシテ罷出、

名披露之事、

問田益田家
使者・家老

一湯田山口之間御道口江、益田伊豆
様御家内様より御使者・家老兩人
罷出候二付、披露致候事、

平連寺

一五ツ時山口平連寺繩手御野立

稽古場地張
見分

二而、稽古場地張被遊

殿様御覽、

旦那様御見分相済、即刻被遊

御発駕之事、

一ノ坂六軒
茶屋

一四ツ時一ノ坂六軒茶屋御小休、

殿様茶屋、

宿藤屋七右
衛門

旦那様御小休宿藤屋七右衛門方江

御着、御小弁当被召上、惣御供中

縁高飯認め、即刻被遊御発駕

之事、

佐々並

一九ツ時佐々並御昼、

殿様御茶屋、

旦那様御本陣木村作兵衛方

御着、御昼被召上、惣御供中縁高飯

認め、即刻被遊御発駕候事、

明木

一八ツ時明木御小休、

殿様御茶屋、

本陣原善助

旦那様御本陣原善助方江

御着、御小弁当被召上、惣御供中

縁高飯認め、即刻被遊御発駕候事、

付り、御道口江直横目罷出候二付、

名披露いたし候事、

鶯谷

一七ツ時鶯谷御小休、

殿様酒屋、

宿石川屋市
右衛門

旦那様御小休宿石川屋市右衛門方

御着、少し御休、即刻被遊御発駕

候事、

一七ツ半時

荻埦城

殿様被遊御埦城、直様

旦那様御登城二而七ツ八歩

時御下り、愈

御機嫌克被遊御帰着候事、

一御道中并赤間関・湯田・三田尻

御滞留中御歩行之節、受村手子・庄屋・

畔頭始終御先御案内仕

候事、

一此道中御小休・御昼・御泊何レ二而も、御宿主門外

御迎送り仕候二付、名披露

之事、

山城本郷勘場

詰居手子中

生見・下畑岡村御所務方
手子并増打廻り後付兼帯

要蔵

地手子与代并寺社方・
作事方手子兼帯

伴次郎

御銀子方・濃物方手子并
増打廻り兼帯

清次郎

居合勘場中

楮成立方并掛銀方兼帯

中津井市郎右衛門

算用師

小野寅蔵

勘場守

吉賀太兵衛

以上

伏野勘場

詰居中

楮成立方并懸銀方兼帯

(郎脱)

中津井市右衛門

算用師

小野寅蔵

勘場守

吉賀太兵衛

社倉救荒方并戸借懸り兼帯

三分一梅太郎

右何レも御迎送り之節

披露之事

殿様巡見に
つき通達

殿様南浦海岸

御巡見尚湯田御入湯

二付、被仰聞之次第

御供中被仰聞候寛

此度御日歸り之唱ニて山口被遊

御越、御温治、^(湯之)赤間ヶ関海を

も被遊

御巡見候処、当時非常

御儉約中之儀ニ付、御仕構

をはしめ諸事御造作

入無之候様、尚又地下向ニお

ゐても去秋之田成・当春畠

作之毛上、彼は難法之砌、

殊ニ農業繁多之時節

とも相成、旁民家之痛ニ不

至様ニと深く御憐愍之

思召を以、於地下不行屈之儀

有之候得共、可被遂御了簡と之

御事ニ而、御代官所江其沙汰

被仰付候条、御供方おゐて御用

之緩せ急彼是差操を以夫

役等成丈相省き、下迷惑ニ

不相成様精々可被遂心遣候、其

外諸事相慎み、仮初二も

権威ケ間敷儀無之様、且

御滞留中其外不自由之

儀有之候共、偏二

御為を相考、物每堪忍せし

め、思召之旨相叶候様相被致

候、万一末々ニ至候処、少も心得

違之儀於有之者、屹度可

被及御沙汰候条、銘々其旨

被相心得、下々へも可被申付候事、

一下宿畳障子等い力程見

苦敷候而も、有掛り二而差

(54)

置候様沙汰被仰付候条、

御供之面々能々可有勘弁

候事、

一御供中宿賄之儀、御泊

且湯田御滞留中其宿

々旅籠仕出被仰付、追而

代錢払下ケ被仰付候事、

一御往来共御休場所ニテ

御供中認之儀ハ、地下より仕出ニシテ

代錢払下ケ被仰付候、尤足輕

已下又供之儀も切符引替ニシテ

認メ被仰付候条、於御台所切
符受取罷越候様被仰付候事、

一御供中何角迷惑も可有

之事ニ付、近年之趣を以

少々宛被御氣を付候条、且々

御供一途相調候様可被相

心得候事、

一御越之節、御供之面々無

扨人馬入用之分者、萩より明

木迄前々之趣を以限人之

立下ケ候条、於人馬方受取

可被申候、其余者御休泊繼

(55)

にして地下夫差出候、山口

御滞留中人馬之義ハ御用所

可被申出候事、

一山口御滞留中寝具之

儀ハ、諸士中下人共持參被

仰付候、尤大到来方へ送り

方被仰付候条、来月五日

迄ニ認メ調、彼役所江可被

差出候事、物限過候而ハ

不被及御沙汰、勿論御通

路筋之儀ハ於宿々用立

被仰付候事、

付り、諸組御中間已下之儀ハ

差替并ふとん壺ッ宛

持参被仰付候二付、組切二

取集、本文之通り大到

来方へ差出候様被仰付候事、

一御休所ニ而、草履草鞋^(馳走)

其外地下より御地走ニ差出

候儀堅く差留候、所持之分

ハ店向ニ差出置、地道之直段^(直段)

を以売払候様御沙汰相成

居候二付、入用之節ハ限錢を以

(36)

可有買得候事、

一御滞留中御供之面々地

下役人等江相頼、買得もの

差留候、入用之節ハ仲取

方江申達、代錢引替にし

て受取候様被仰付候事、

右之通被仰付候事、

三月

右之通り遠近方呼出有之、
壺人差出候処写取歸り候事、

(終)